



MieTLO

MIE TECHNOLOGY LICENSING ORGANIZATION

三重 T L O 技術情報クラブ会報

No.29 2021年 1月

CONTENTS

新春のご挨拶	1	第19期(2019年度)営業報告	6
研究室紹介	2	三重大学大学院工学研究科 研究紹介イベント	
会員企業紹介	3	「みんな見せます・工学研究科」報告	7-8
三重 T L O の技術移転および特許情報	4-5	別刷「新サービスのお知らせ」	

謹んで新年のお喜びを申し上げます



旧年中は格別のご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます
新年を迎え、皆様のご繁栄、ご健康、ご多幸をお祈り申し上げます

弊社におきましては、会員企業／団体様へのサポートを
より一層充実させるとともに、大学との連携を軸に
新しい価値を創造し、地域活性化に努めてまいります

どうぞよろしくお願ひ申し上げます 2021年1月

株式会社三重ティーエルオー
代表取締役社長 飯田 和生
(三重大学大学院工学研究科 教授)

昨年は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、皆様も1年前には考えられなかったような「新しい生活様式」を強いられ、様々な活動において、ご苦労されたことと存じます。教育研究活動を行う大学におきましても、教職員の感染症対策、オンライン授業、入試での感染防止など、日々の活動が制限され、企業・自治体との連携にも困難な事態となりました。

さて、このような人々の生活様式等の変化にともない、企業の製造や開発の現場では新しい取り組みや業務の効率化が求められるようになるかと存じます。このような時、新たな研究開発には、大学の研究者との共同研究や技術相談など、大学との連携の仕組みをうまく活用いただきたいと思ひます。また、弊社では2019年度

より「専門家人材バンクサービス」事業を開始しました。本事業は会員企業様等が大学の教員や研究者だけでは解決できない問題について、学外の当該分野の専門家に相談し、指導を受けていただけるサービスです。詳しくは、本会報挟み込みの「専門家人材バンクサービスの紹介」をご覧ください。

本年も変わらぬご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。



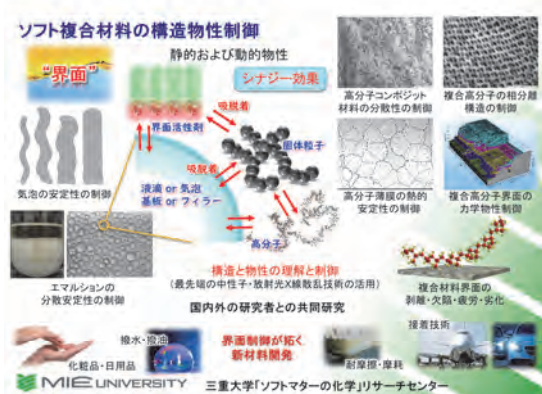
◆ 研究室紹介 ◆

三重大学大学院工学研究科

分子素材工学専攻 有機素材化学研究室

教授 鳥飼 直也
准教授 藤井 義久

高分子・界面活性剤などソフトマターの特徴である自己集合性や界面活性を利用して、異なる素材を組み合わせた高分子コンポジットなどのソフト複合材料や新規多孔性材料の構築、また界面が関わり発現するそれらの物性・機能のメカニズムを明らかにし制御することを研究しています。分子レベルでの構造観察を通して物性・機能の発現機構を理解するために、SPRING-8やJ-PARCなど世界有数の大型実験施設を利用したX線・中性子散乱実験を行っています。



1. 高分子薄膜の熱的安定性と成分深さ分布

高分子材料は、薄膜として、接着、塗装など様々な用途に利用されるが、膜厚が薄くなると界面での相互作用の寄与が大きくなり、基板からの薄膜の撥き、脱濡れがおこります。異なる添加高分子による薄膜の脱濡れ抑制効果と、そのメカニズム理解のために成分深さ分布を調べています。

2. 固体粒子の分散・凝集状態と高分子コンポジットの粘弾性特性

高分子に固体粒子が添加された高分子コンポジットは、軽量かつ高強度の構造材料として、タイヤ材料をはじめ多様な用途に利用されています。高分子の吸着などを利用して粒子の分散・凝集を制御し、コンポジット材料の粘弾性特性との関係を調べています。

3. 複合乳化剤によるエマルジョンの安定性とレオロジー特性

食品、化粧品など広く日常生活に利用されるエマルジョンについて、その安定性とレオロジー特性に対して、固体粒子と界面活性剤など異なる乳化剤の組み合わせによるシナジー効果を調べています。

4. 界面科学に基づく新規多孔性材料の構築

吸着材、遮熱材などに利用可能な多孔性材料の構築において、高分子溶液から析出する過程での界面ダイナミクスを制御することで、様々なサイズの細孔を作り分けることに取り組んでいます。

三重大学大学院生物資源学研究所

共生環境学専攻 フードシステム学教育研究分野

教授 森尾 吉成
助教 内藤 啓貴

本研究室では、フードシステムを構成する循環サイクル、生産→加工→流通・輸送→市場→購買→調理・消費→廃棄物回収・養分循環→資源投入→生産、のそれぞれの現場で、安全、品質、効率、経済、循環の観点で必要とされる新しい技術について研究開発しています。我々が有するコア技術は、森尾が有する画像処理技術（AIを含む）と、2020年10月に本学に着任した内藤が有する分光技術です。

画像処理技術については、1) 電子顕微鏡画像を用いた精白米表面の3次元形状の定量化技術、2) スキャナーを用いた穀粒の外観品質評価システム（特許公開）、3) 切りバラの茎の3次元形状自動計測システム、4) 乳牛の斑紋を用いた個体識別システム、5) 太陽光発電パネル結晶面不良箇所検出システム（特許公開）、6) 自律型農作業支援ロボットのための画像認識技術の開発、をこれまで行ってきました。特に、自律型農作業支援ロボットの開発は、現在最も力を注いでおり、日本の中山間地域で行われる農業に合わせた独自のシステムを開発しています。

分光技術については、1) 中赤外分光法を用いた乳房炎検出、2) テラヘルツ全反射減衰分光法を用いた乳房炎検出、3) 電磁波を用いた異物検出システム（特許登録）、4) 蛍光指紋分光法を用いたたばこ葉をはじめとする試料中成分定量法の開発（複数特許出願）、をこれまで行ってきました。

その他の研究としては、生物環境制御学教育研究分野の堀部和雄名誉教授、村上教授のもとで、植物工場に関連する研究に20年近く継続して参加しており、植物体の画像計測を中心に技術支援を行っています。民間企業との共同研究も実施中で、三重県農業研究所へのAI導入支援も行っています。



《作業者行動追跡機能を持つ農業用ロボット車両》

このロボット車両には、作業者を追尾するためのPan-Tilt-Zoom可能な首振りカメラと、作業者の行動を認識するための画像処理システム、車両の自己位置を検出するためのRTK-GPSが搭載されています。

◆ 会員企業紹介 ◆

木造で工場や倉庫を建築 ～トラス・ベリーウッド工法～ 株式会社オオコーチ

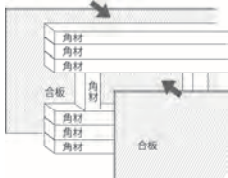
工場や倉庫といえば、鉄骨構造のイメージがありますが、木造でも 7.2m の無柱空間を実現し、坪単価 29.8 万円～と低コストに抑えることができる「トラス・ベリーウッド工法」をご紹介します。

◆トラス・ベリーウッド工法とは



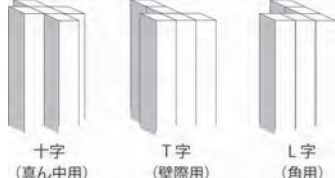
「トラス・ベリーウッド工法」は、住宅建築の規格サイズの柱を多用することでコストを押さえつつ、柱を合わせることで大開口を確保した工法です。

① 平行弦トラスの梁



≪梁イメージ図≫

② 3タイプの形状の柱



≪柱イメージ図≫



≪完成写真≫

左の工場棟がトラス・ベリーウッド工法を採用

「トラス・ベリーウッド工法」で建設した工場棟は、坪単価 29.8 万円と低価格での建設を実現しました。

工場や倉庫を建設しようという時に、検討の選択肢として、木造を是非ご検討ください。

【連絡先】

〒515-0063 三重県松阪市大黒田町 4 7 2
TEL. 0598-26-1551 FAX. 0598-26-2676
E-mail: info@ookochi.co.jp
URL: https://www.ookochi.co.jp
(担当: 宅建事業部 竹内)

移動可能な循環型水洗トイレ「ミニソフィ」

アルコ株式会社

当社は土木建設資材、公園・景観関連資材の販売や施工をする「土木・景観事業」、落石防止工事の「落石・斜面对策事業」、浄化槽や雨水利用システムの「水環境事業」で全国展開を進めています。

この度、沖縄県の光建設株式会社、株式会社沖創工と連携して開発した移動可能な循環型水洗トイレ「ミニソフィ」をご紹介します。

概要

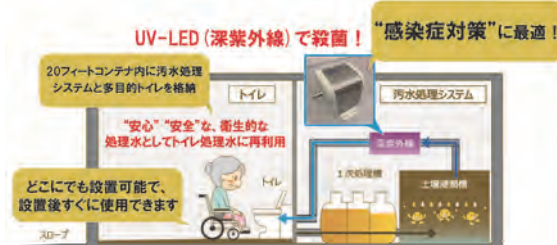
「ミニソフィ」は 20 フィートコンテナ内に汚水処理システムと多目的トイレを格納した移動可能な循環型水洗トイレです。設置や移動が簡単に行え、トイレ室内は広々とした個室空間が特長で、車椅子利用者、高齢者の方等にも安心してお使いいただけます。オプションとして太陽光発電・蓄電システムを装備でき、災害時の停電・断水に対応できる災害トイレとして活用できます。また、電気工事、水道工事が困難でトイレの設置をあきらめていた場所にも適応できます。



特長

- ①きれいで衛生的な処理水
 - ・20年以上の実績がある土壌を使った汚水処理システム技術でトイレ汚水を高度に浄化
 - ・感染症対策として深紫外線殺菌 (UV-LED) で衛生レベルを向上
- ②安全・安心なトイレ
 - ・個室でゆったり広々としたトイレ空間
 - ・遠隔監視システムにより安全管理
- ③コストパフォーマンス
 - ・設計業務や工事 (土木工事、汚水処理、水道・電気工事) が不要
 - ・汚泥清掃は年 1 回程度
 - ・メンテナンスが容易でランニングコストも安価
- ④各種ラインナップ
 - ・トイレ利用回数に対応
 - ・オーダー設計も可能

トイレ新築・改修の際にご検討ください。



【連絡先】

〒514-0815 三重県津市藤方 2254 番地 1
TEL. 059-213-8811 FAX. 059-213-8880
E-mail: a.nishiyama@alcoinc.co.jp
URL: https://www.alcoinc.co.jp
(担当: 水環境事業部 西山)

三重 T L O の技術移転および特許情報 (No.29)

1. 平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月の特許出願状況

平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月の期間に、三重大学より出願しました特許出願件数は下表のとおりです。
(基礎出願、国内優先権出願、PCT 出願および自国指定 PCT 展開、分割出願を含みます)

分野	単独出願	共同出願	合計
医薬品	4	15	19
医療関連	2	3	5
バイオ	1	4	5
食品	0	1	1
環境・エネルギー	0	2	2
福祉機器	0	0	0

分野	単独出願	共同出願	合計
情報	0	0	0
建築・土木	1	2	3
材料	0	2	2
電気・機械	1	3	4
電子・デバイス	1	5	6
総数	10	37	47

上表に示しますように令和元年度の特許出願件数は大学単独の出願が 10 件、企業及び他大学との共同出願が 37 件で合計出願件数は 47 件となりました。平成 19 年度からの毎年の出願件数は 33～59 件の範囲で推移しております。近年は重要案件への絞り込みも進み 40 件前後の出願件数となっております。

大学の分野別の出願件数の割合は、医薬品、医療関連、バイオの医学系 3 分野合計では 62%、材料、電気・機械、電子・デバイスの工学系 3 分野の合計は 26% という比率になりました。

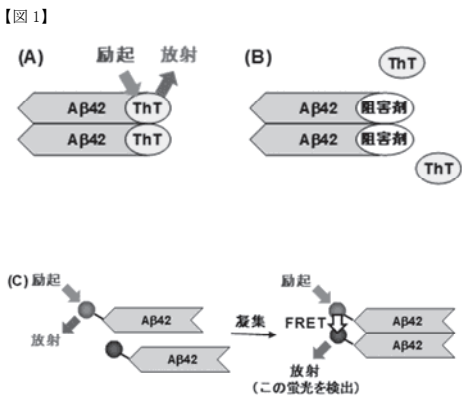
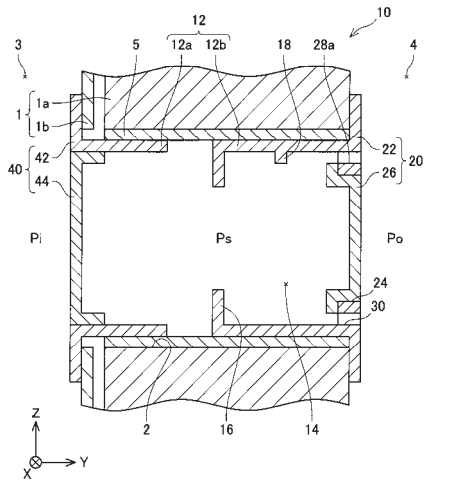
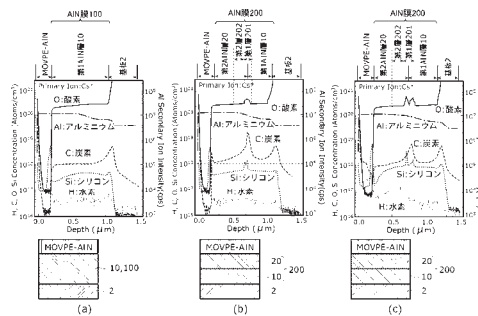
また令和元年度は企業及び他大学との共同出願が 79% となり、三重大学の地域連携並びに産学連携が進んでいる指標と見るすることができます。

2. 実施許諾可能な特許出願の概要

前記特許出願のうち、会員の皆様へ実施許諾可能な原則公開前の大学特許出願 5 件について、以下に紹介致します。

実施許諾をご希望される場合、事前に条件等を協議させていただきます。

分野	発明の名称	発明の内容・主要図
医療・バイオ	新規化合物 PTA を用いた γ δ 型 T 細胞への遺伝子導入方法 (PCT 出願)	<p>がん治療法として近年注目される T 細胞輸注療法に使用される外来遺伝子が導入された γ δ 型 T 細胞を、高い効率で高純度に製造する方法。 γ δ 型 T 細胞をビスホスホン酸エステル誘導体で刺激後、IL-7 および IL-15 の存在下で培養し、続いて遺伝子導入することにより、外来遺伝子が導入された γ δ 型 T 細胞を、高い効率で高純度に製造する方法を提供する。外来遺伝子として T 細胞受容体 (TCR) またはキメラ抗原受容体 (CAR) を導入した場合、TCR および CAR が機能的に発現した γ δ 型 T 細胞を得ることができる。</p> <p>PTA 刺激により高純度な γ δ T 細胞の取得が可能</p>
	抗原受容体	<p>CD19CAR の構造</p> <p>現在、世界各地で、B 細胞性腫瘍に対する新規治療法として、CD19 抗原を認識するキメラ抗原受容体 (CAR) を発現させた T リンパ球を体外で培養して、患者に投与する CD19・CAR-T 細胞療法の開発が盛んに進められている。本発明は、CD19・CAR-T 細胞療法に関する新規な抗原受容体を提供する。がんの治療又は予防効果がより高い抗原受容体であり、C 末端側に自己切断ペプチドドメインを介して GITRL ドメインを含む。CAR 分子発現の効率が高く、強力、迅速で持続性に優れた標的的特異的細胞傷害活性を示す。現在おこなわれている CD19・CAR-T 細胞療法で問題となる不応例、再発例に対しても臨床効果が期待される。</p>

分野	発明の名称	発明の内容・主要図
医療・バイオ	アミロイドβの凝集体の測定方法	<p>アルツハイマー病の治療・予防に、アミロイドβ (Aβ42) 凝集阻害剤の開発が望まれている。開発には、凝集体を定量する必要がある。現在の定量法は、凝集体に結合して蛍光増大を示すチオフラビン T (ThT) を用いる方法が知られている (図 1 (A)) が、凝集阻害剤が ThT の結合部位に結合すると蛍光を消光させてしまう (図 1 (B))。更に、ThT 自身が Aβ42 の凝集阻害活性を有することから、経時測定を行うことが困難である。本発明では凝集を阻害せず、蛍光の消光を回避でき、かつ定量試薬を新たに加えることなく、凝集量を経時的かつ正確に測定する方法を提供する。蛍光波長が異なる 2 つの蛍光基をそれぞれ導入した Aβ42 を作製し、凝集により近接した蛍光基間の蛍光共鳴エネルギー移動 (FRET) を凝集の指標とし (図 1 (C)) Aβ の凝集体を測定する。N 末端側に第 1 の蛍光物質を結合させた第 1 プローブと、蛍光によって励起され得る第 2 の蛍光物質を N 末端側に結合させた第 2 プローブとを備えたことを特徴とする Aβ42 凝集体を測定するためのプローブセットによって達成される。</p> 
土木・建築	スリーブ	<p>建物の壁に設けられた貫通孔を通じて水が屋内に浸入することを抑制する技術。貫通孔内にスリーブが設置され、屋外と連通していると共に屋内と隔離されている内部空間を備える筒状本体と、筒状本体に取り付けられて内部空間と屋外とを区分する蓋体と、を備えている。蓋体は、貫通要素を保持可能な保持部と、内部空間から屋外に水を排出する排水口と、を有している。上記のスリーブでは、筒状本体の内部空間は屋外と連通しているため、屋外と等圧になる。一方、当該内部空間は屋内と隔離されているため、屋内と等圧にならない。このため、雨水等の水は、等圧である屋外と当該内部空間との間で移動し、屋外及び当該内部空間と等圧でない屋内には移動し難い。このため、屋外から侵入した水が屋内まで侵入することを抑制することができる。また、内部空間に侵入した水は、蓋体の排水口より屋外に排水されるため、内部空間が侵入した水で満たされることを回避できる。</p> 
エレクトロニクス	窒化物半導体基板、半導体素子及び窒化物半導体基板の製造方法	<p>安価なサファイア基板上に高品質な窒化アルミニウム (AlN) 薄膜が作製された窒化物半導体基板について、AlN 結晶の欠陥密度を低く抑え、高品質な AlN 薄膜等が成膜された窒化物半導体基板を得る方法。本発明では、基板と、前記基板の上方に設けられた AlN 含有膜と、を備え、前記 AlN 含有膜の膜厚は、10000nm 以下であり、前記 AlN 含有膜の貫通転位密度は、$2 \times 108\text{cm}^{-2}$ 以下である。また、本発明では、基板と、前記基板の上方に設けられた AlN 含有膜と、を備え、前記 AlN 含有膜の膜厚は、300nm 以上 10000nm 以下であり、前記 AlN 含有膜の酸素濃度は、1018cm^{-3} 以上 1021cm^{-3} 以下である。また、その半導体素子は、上記の窒化物半導体基板を備える。また、その製造方法は、基板を準備する準備工程と、前記基板の上方に 100nm 以上 900nm 以下の膜厚を有する AlN 膜を成膜する成膜工程と、前記成膜工程で成膜された AlN 膜を 1500°C 以上でアニールするアニール工程と、を含み、前記成膜工程及び前記アニール工程は、複数回行われる。</p> 

上記特許に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

(株) 三重ティーエルオー 技術移転部長 上井 大輔 E-mail: daisuke.uei@mie-tlo.co.jp
Tel 059-231-9822 Fax 059-231-9829

ご案内

技術情報クラブ会報No.28でご案内いたしました、三重大学が出願した特許のうち、第三者への実施許諾が可能なものに関するリストが完成いたしました。現在、弊社ホームページに掲載しております。上記サイトへは、次のQRコードを読み取り、もしくは画面上でクリックしてアクセスをお願いします。

三重大学の特許の実施許諾について、関心がございましたら、弊社までご連絡をお願いします。



(担当：技術移転部長 上井)

第19期（2019年度）営業報告（自2019年4月1日 至2020年3月31日）

I. 第19回定時株主総会開催報告

2020年6月25日、第19回定時株主総会が開催されました。委任状をご提出いただいた株主様を含め、ご出席いただきました株主様の有する議決権の数が、総議決権の過半数を満たしており、本会は有効に成立し、決議事項も原案通り、承認可決されましたことをご報告いたします。

II. 2020年度の事業運営について

三重大学の知的財産技術移転・産学官連携に関する業務、地域拠点サテライト、中小企業との共同研究スタートアップ促進事業、地域イノベーション・エコシステム形成プログラムなど、三重大学が進める取り組みと協働するとともに、会員企業・団体へのサポート活動等との連携・調整を図り、大学への協力・支援を充実させています。また、2020年4月2日開催の取締役会にて当社の今後の組織のあり方に関する検討を行いました。当社の組織変更（案）、スケジュール、三重大学に提案できる新事業・業務（案）について検討を行っており、第20期中に方針を固める必要があると考えています。なお、昨年度に実施した個人株主からの株式取得は本年度も継続し、取得した株式を自己株式とします。

【弊社の使命】

I 三重大学と連携し、企業・団体・自治体への支援による技術／産業基盤の確立と向上に寄与する

II 三重大学の教育、研究、社会貢献を支援し、三重大学の価値創造に寄与する

・上記の使命に基づき、三重大学と協働し、大学の活動への協力・支援を実施します。会員企業・団体へのサポートを充実させるとともに、大学との連携活動、当社独自の活動の両輪を回し、三重大学とともに地域活性に努めます。

<三重ティーエルオーのサポートメニュー>

サポート① 共同研究等の推進（大学等との連携が円滑に進むように支援します。）

サポート② 研究支援事業等の受託（官公庁、地方自治体等の委託を受けて事業を遂行します。）

サポート③ 大学等の設備を利用した共同研究の支援（大学等が保有する開放機器の円滑な使用を支援します。）

サポート④ リクルート・就職支援（現役学部生・大学院生等の就職活動を支援します。また、会員企業・団体への現役生の就職支援を行います。）

サポート⑤ 技術移転〔特許・成果有体物等〕（大学等が保有する特許や成果有体物等の技術移転をスムーズに行えるように支援します。）

サポート⑥ 研究室紹介・交流会（大学で行われている最新の研究内容を知り、研究の現場に触れる機会を提供しています。地域企業と大学間の共同研究等での連携拡大を目指しています。）

サポート⑦ ひと・しごとマッチングサポート（三重大学の卒業生をはじめとする既卒者を、当社会員をはじめとする企業・団体に紹介し、就業の支援を実施する有料職業紹介事業です。なお、本事業は三重大学の現役生は対象としておりません。）

サポート⑧ 専門人材バンクサービス（企業ニーズに応じた外部専門家による技術講習会・技術指導を提供します。）

弊社の現況（2020年11月20日現在）（2002年4月16日 文部科学大臣・経済産業大臣承認）

1. 株式の現況

（1）発行済株式総数 260株 （2）株主数 17名・団体、株式数 76株 （3）自己株式取得数 184株

2. 取締役および監査役

代表取締役 飯田 和生（三重大学 大学院工学研究科教授）

取締役副社長 松井 純（元文部科学省産学官連携CD）

取締役 緒方 正人（三重大学 理事・副学長）

取締役 武田 保雄（三重大学 名誉教授）

取締役 杉山 早実（元当社技術移転部長）

取締役 奥山 克己（元当社事業推進部）

監査役 山本 隆司（㈱三重銀総研 代表取締役社長）

監査役 田中 真司（㈱百五銀行 公務部課長）

三重大学大学院工学研究科 研究紹介イベント 「みんな見せます・工学研究科」報告

0. 本セミナーの趣旨

地域の皆様に三重大学の活動を少しでも知って頂くために、今年も研究紹介イベントを開催しました。今年も、新型コロナウイルス感染予防のため、ZOOM 配信によるオンライン開催とし、多くの教員から研究内容を紹介させて頂きました。また、チャット機能を使用して参加者の皆様と意見交換の機会を設け、皆様と意見を交わすことができました。セミナー終了後のアンケートでは、「ほぼ期待通りであった」「期待以上に良かった」とのご評価を頂きました。

コロナウイルスの影響で難しい状況ではありますが、皆様に三重大学の研究・教育活動を知っていただき、様々な手段を用いて今後も皆様との交流の機会を継続できればと考えております。

地方から新技術が生まれ、地方も輝くことが三重大学の使命の一つと考え、今回の活動が皆様のお役に立てることを願っております。

(三重大学大学院工学研究科長 池浦良淳)



1. セミナー内容

2020年10月7日の機械工学編を皮きりに全6回のセミナーをオンライン配信にて開催いたしました。

- 10月7日 機械工学編
- 10月21日 建築学編
- 11月4日 情報工学編
- 11月26日 電気電子工学編
- 12月2日 分子素材工学編
- 12月11日 新技術説明編

機械工学編では、量子力学の機械工学への応用、高品質な鋳物を生産するための自動化技術の開発、自動車の運転支援システムや自動運転技術など人間を支援する機械システム、自発的熔融凝固接合、炭素繊維強化プラスチックの超音波併用加工、風洞

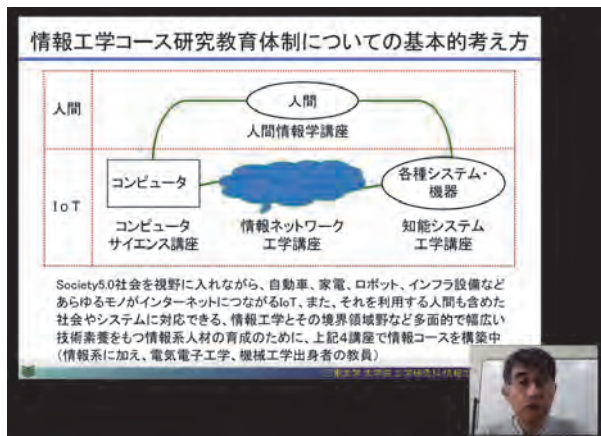
実験やフィールド実験による風車の性能測定や大型風洞を活用した地元企業との連携、エネルギー・環境機器における複雑な熱流動の解析と評価、工学機器における流動の予測・制御に関する研究、形状記憶合金やアモルファス合金など機能性材料の力学的特性評価、生体器官の力学的機能評価と医療器具開発などの講演が行われました。特に自動運転技術など人間を支援する機械システムや高品質な鋳物を生産するための自動化技術の研究に多くの関心が寄せられました。



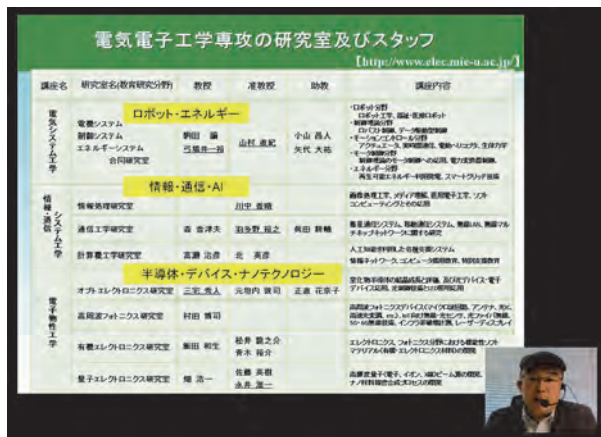
建築学編では、地方都市再生のための都市計画に関する研究、歴史的建造物を中心とした実測・文献調査による歴史的価値の評価、公共文化施設と制度、設計スケッチを資料とした設計過程の研究、集成材・LVL等の鋼板補強の技術的発想とその利用、戸建て住宅を対象とした建築物の断熱性能の簡易実測評価手法、反射音構造と聴覚との関係荷関する研究、エネルギー有効利用のための蓄熱技術などの講演が行われました。特に建築物の断熱性能の簡易実測評価に関する研究に多くの関心が寄せられました。



情報工学編では、組み合わせ最適化アルゴリズムの工学的応用、GPU を用いた高性能計算の自動最適化、光通信ネットワーク信頼性向上技術、無線通信ネットワークと無線信号処理、ライフサポートの知能化などの講演が行われました。



電気電子工学編では、深紫外 LED と殺菌で生み出す産業連鎖、荷電粒子(電子, イオン)線およびγ線の計測・評価技術、人間・ロボット、モーションコントロール、エネルギー・モータ制御技術、無線通信技術と無線ポジショニング技術の研究、機械学習・ディープラーニングとその医療・福祉分野への応用などの講演が行われました。



分子素材工学編では、高分子材料の合成と機能開発、ファインケミカルズ合成を指向した合成反応の開発、芳香族化合物、フラベンを含む新しい有機分子の電子的・光化学的特性および膜の機能、溶液反応で作製するナノ材料とその評価・光機能、次世代蓄電池の実現に向けた材料開発、高温反応場を利用した多彩なナノ物質創製、高性能

な光触媒材料の開発、生物の素材で作る人工細胞(リポソーム)、界面科学で創るソフト複合材料と物性・機能制御、新しい階層構造触媒を用いた巨大分子の分解、レクチナンパクを用いた少量検体・迅速・簡易な血液成分中の糖鎖分析のための検査試薬の開発などの講演が行われました。

2. 新技術説明編

2011 年より毎年開催してまいりました「三重大学大学院工学研究科研究室紹介と見学会」は、今年度は三重 T L O によるオンライン配信で「みんな見せませす・工学研究科(新技術説明編)」として開催しました。

機械工学専攻大学院生による金属材料および樹脂材料の力学特性の解明と新しい体内固定具の開発や脊椎固定術における新たな術式と試験機及び解析ソフト、電気電子工学専攻大学院生による窒化物半導体と深紫外 LED の作製・評価に関する研究設備と各種実験機器及び使用目的、分子素材工学専攻の大学院生による新しいβ-ラクタム合成法を応用した高コレステロール血症治療薬(エゼチミブ)合成の研究と試験機について、それぞれ研究紹介と試験機器の説明がなされました。

また、「三重大学との連携を進めよう！技術相談・共同研究等について」と題して、三重大学との連携の進め方の解説が行われました。

三重 T L O は三重大学と連携し、企業・団体からの技術相談への対応、三重大学教員による技術指導、共同研究の推進、調査事業の受託など、産学官連携の窓口として機能しています。お気軽にご相談ください。

(事業推進部 権藤)

㈱三重ティーエルオー

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577 番地
 三重大学内
 TEL. 059-231-9822 Fax. 059-231-9829
 E-mail : mie-tlo@mie-tlo.co.jp